



熱い思いを堂々と発表

7月2日、少年の主張前橋大会が総合福祉会館で開かれました。市内各校を代表する中学生が日ごろ感じていることや考えていることなどを熱く発表。堂々とした態度や素晴らしい発表内容に会場からは大きな拍手が送られました。



7月2日、前橋テルサで「くらしの中の危険について」をテーマにくらしのセミナーを開催。身近で起こる製品事故やその予防法の実例を交えた話がありました。参加者は不注意や誤使用による事故を起こさないよう、熱心に耳を傾けていました。

トップ選手が親王牌で熱戦

7月5日から8日まで、グリーンドーム前橋で第17回寛仁親王牌・世界選手権記念トーナメントが行われました。国内トップの競輪選手が熱戦を繰り広げ、優勝した山崎芳仁選手には、寛仁親王殿下の次女、瑤子さまから親王牌が手渡されました。



自然の大切さ分かったよ

みやぎオオムラサキまつりを7月6日、宮城総合運動場で開催。この蝶にかかわる紙芝居や歌の合唱・演奏が行われた後、大切に育てられ羽化したオオムラサキを、子どもたちが森に放しました。



正しく使って安全安心



群馬美術家連盟が主催する第58回連盟展で、洋画や日本画、建築、ジュニアの4部門875点の応募の中から最高賞である連盟賞に輝いた。「この受賞は本当にうれしい。感無量です」
受賞作は、「春きざす」。春の訪れを待ちながら力強く根を張るブナの木。大きさは50号という大作の水彩画である。1年間をかけ、いろいろな色を使い、いろいろな物に見えるように仕上げた。木を擬人化して、人間の苦楽を表現し、緻密さと大胆さを兼ね備えた描写が評価された。
「毎年、尾瀬への入山口で利用者の指導のボランティアをしているんです。一昨年の6月、尾瀬のアヤメ平でこの大きなブナが目

留まり、キャンバスに描いたんです」
冬の時季、この場所はおよそ4月の雪が積もる。その重みに耐え切れず、この木は奇形樹となった。
「風景画が大好きなんです。中でも雪景色が好き。この絵を見て、それぞれの人が何かを感じてくれたらいいですね」
絵を習い始めたのは、10年前の退職時期。3年前から老人福祉センターなどで本格的に絵を習い始め、公募展などに出演している。
「これからも風景画を描き続け、色の表現や出し方を追及したいですね。夢は、群馬美術家連盟の会員になること。それを追い続けることが今の自分の生きがいですね。だから、絵はわたしの人生そのものです」と、微笑みながら語ってくれた。



第58回連盟展で最高の連盟賞
仲西 豊さん・69歳
川曲町

若い芽のポエム

昨年度行われた第11回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

佳作 四月桜

北海道札幌市立澄川小6年

岡崎 佑哉さん

薄紫色の夕霧の中をバスで抜けいつもの長い 深い山道へとわけ入る
かりそめの吹雪が二度三度吹き付けては
何事もなかったようにぼんやりと
生ぬるい雪解け水に荒れた舗装が濡れる
北の果てにある村と村をつなぐ道
窓の外から 急に森の全景が飛び込んで
一年ぶりに僕の目を輝かせた
四月の桜が 山肌の木々全てを覆っていた
いやいやぼくも六年生 そりゃわかるさ
ここの桜は五月も末 あれはただの雪化粧
だけど夕陽に照らされて それあまりに桜だった
白 薄桃色 藤色と 絵に描くような色使い
河津桜に染井吉野 松も隠れる

満開の
何分走っても 尽きるこのな
い桜の園
けれども僕は一瞬で もとの暗
い目に戻る
春の雪をまとった極北の木々の
衣装に
何一つ欠けたところなんてな
ったけど
広すぎたんだ それは 致命的
に広すぎた
たった一年前 僕は美しいとも
ありがたいとも
これっぽかしも思わないままに
せわしく
四月の桜の下を駆けていたんだ
そして
四月の桜には それがよく似合
った
人に無理に植えられて ようやく
根付いた
ビルと家と線路と道路に気遣っ
て咲く
駅前の その時期以外は雑木で
しかない桜並木
いつになったら思い出すだろう
遠いあの條々の 揺らめきを
遠い